

# 事例3 いかなる状況でもコンピュータシステムを停止させない 地震対策と落雷対策を低コストで実現

## キャタピラー・ジャパン・システムサービス

キャタピラー・ジャパン・システムサービス(以下、CSS)は、親会社にあたるキャタピラー・ジャパンが100%出資する子会社で、親会社の経理や生産ライン、販売、顧客情報(部品供給)などを扱うシステムすべての開発と管理を一手に引き受けている。国内の拠点は、本社のある相模(神奈川県)と明石(兵庫県)の2カ所だ。親会社の主力製品である油圧ショベルやブルドーザなどの部品供給に関する全国規模の情報は、相模のデータセンターにある約200台のコンピュータが一元的に管理している(写真1)。まさに、顧客はもちろん企業にとって、業務上の最も重要なデータが集積されているというわけだ。CSSシステム運用部エグゼクティブマネージャーの谷口圭司氏は言う。「万が一、自然災害でこのデータセンターが被

害を受け、停止することになれば、部品供給はストップし、顧客にもその取引先にも迷惑がかかる。例えば、当社の主な顧客である建設業者にとっては、部品が供給されず、建設機械が1日稼働できないだけで被害額は高額となり顧客の信頼を失うケースがある。そうした事態を未然に防ぐためにさまざまな対策を進め、たとえ自然災害があってもコンピュータシステムが動き続けることができるように備えておくことは、CSSにとって重要な業務だ。これは子会社だけで実現できる規模ではないので、親会社と協力して取り組んでいる」

つまりCSSにとっての自然災害への対策とは、

写真1 データセンター内の様子。写真はメールシステムなどを管理するサーバー。20台の免震装置が設置。これほどまでの規模は珍しいという



### 企業概要

会社名: キャタピラー・ジャパン・システムサービス(株)  
所在地: 〒229-1192  
神奈川県相模原市田名3700  
設立: 1993年  
従業員数: 162人  
資本金: 1億円  
事業内容: ステムコンサルティング、システム開発、  
コンピュータ利用技術支援、ソフトウェア  
販売など